

見えない障害を理解する：
高次脳機能障害の正しい理解と支援のヒント



日常生活への影響と対応の基本2 (社会的行動障害)

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科
櫻岡絵里香（言語聴覚士）



セミナーの内容

1. 高次脳機能障害とは
ー「見えない」障害を理解する
2. 日常生活への影響と対応の基本1
ー注意障害・記憶障害・遂行機能障害
3. 日常生活への影響と対応の基本2
ー社会的行動障害
4. 日常生活への影響と対応の基本3
ー失語症
5. 高次脳機能障害のある人を支える地域連携



第3回の内容

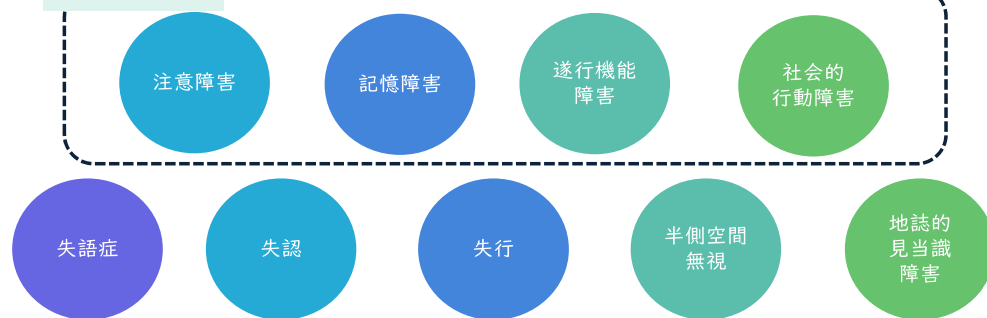
1. 高次脳機能障害のおさらい
2. 社会的行動障害の正体とは何か？
3. 社会的行動障害への対応



高次脳機能障害とは

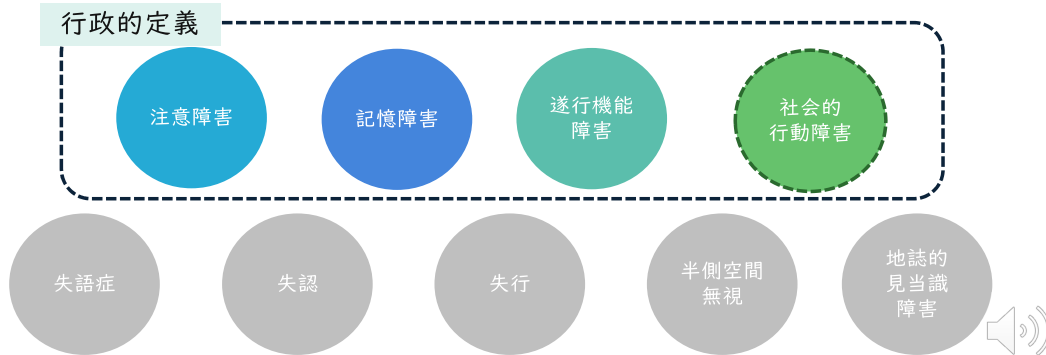
病気や事故により、脳の特定の部位が損傷されて起こる、言語、思考、記憶、注意、感情のコントロールなどの認知機能の障害。

行政的定義



高次脳機能障害とは

病気や事故により、脳の特定の部位が損傷されて起こる、言語、思考、記憶、注意、感情のコントロールなどの認知機能の障害。



社会的行動障害の正体とは？

➤医学的な症状名ではない

注意障害 = 注意機能の障害

記憶障害 = 記憶機能の障害

遂行機能障害 = 遂行機能の障害

社会的行動障害 = ？

国際疾病分類（ICD-10）：「脳の疾患、損傷及び機能不全による人格及び行動の障害」などに分類される様々な症状

なぜ「社会的」なのか

- 対人関係や社会生活においてトラブルとして顕在化しやすいため、「社会的」な行動障害と呼ばれる
- 一見すると、ご本人の持つ「性格」にも見えるため、最も周囲の理解が得られにくい見えない壁となる

元々の性格の問題ではない

脳の機能の変化による心理・行動面の症状

社会生活への影響が大きい

社会的行動障害の出現頻度

脳卒中後の症状の出現率（脳卒中ガイドライン2021_改訂2025）

意欲の低下（アパシー）：9～28%

不安症状：47%

脳外傷後の症状の出現率（Ylvisaker, 2007）

攻撃的行動：約25%～33.7%

易刺激性（イライラ）：重度脳外傷では5年後で64%

うつ病：61%

東京都の実態調査（東京都高次脳機能障害者実態調査委員会，2008）

高次脳機能障害のある人899例のうち「行動と感情の障害」：44.5%

意欲の障害：20.4%，抑うつ状態：18.0%，不安：16.1%

情動の障害：10.8%，興奮状態：10.6%，幻覚妄想：4.7%

社会的行動障害の主な症状

ブレーキが効かない

- ・抑制の障害
- ・情動コントロールの障害

アクセルが効かない

- ・意欲の低下（アパシー）

モニターが効かない

- ・認知コミュニケーション障害

他に、依存的行動、退行、固執、不安、抑うつ、被害妄想、徘徊、幻覚妄想



ブレーキが効かない：抑制の障害

□欲求に従って衝動的に行動する 我慢や待つことが難しい

- ・食べたい欲求のままに食べ過ぎる
- ・場にそぐわない性的な発言や行動をする
- ・買いたいものをすぐに買ってしまい浪費してしまう
- ・特定のものを集めて溜め込んでしまう（収集癖）
- ・座っていられずに歩き回る



ブレーキが効かない：情動コントロールの障害

□感情のコントロールができない

- ・ささいなことで怒りだし、大声を上げる
- ・暴言や暴力をふるってしまう
- ・突然泣き出したり、笑いが止まらなくなる



ブレーキが効かない

□ブレーキが効かない背景

脳の前頭葉の機能の障害（特に腹内側部、眼窩部）

普段は抑えている欲求や情動が制御（コントロール）できない状態

= ご本人が最も苦しい

□対応方法

周囲が感情的になる、叱責するなどの対応は逆効果

環境を整えることをまず第1に考える



アクセルが効かない：意欲の低下（アパシー）

□意欲・発動性の低下した状態

- 何事にも興味や関心が持てない
- 自分から何かを始めることが難しい
- 起きてはいるけれど、1日中ぼーっとして過ごす
- 怠けている、と誤解されやすい



アクセルが効かない

□アクセルが効かない背景

脳の前頭葉の機能の障害
行動を開始するスイッチが入らない状態
一見、抑うつにも見えるが、異なる症状という点で見極めも必要

□対応方法

スケジュールを決める
周囲の促しのもと、行動のスイッチを押してあげる
具体的な目標をご本人と設定する
※抑うつやうつ病の場合には、異なる対応が必要となる



モニターが効かない：認知コミュニケーション障害

□良好な対人関係を保つための「コミュニケーション」

相手の状況や立場、感情に関係なく話す
話の真意を読み取ることが難しい
比喻や皮肉などの理解が難しい
一方的に話し続ける
唐突に話題が切り替わる
会話のキャッチボールがうまくいかない



モニターが効かない

□モニターが効かない背景

社会脳と呼ばれる脳の広範なネットワークの機能の障害
コミュニケーションの背景に、注意機能、記憶、遂行機能などの
高次脳機能障害が関与

□対応方法

コミュニケーションは双方向で成り立つもの
周囲がコミュニケーションの特徴を理解する
曖昧な表現は避け、具体的かつ簡潔に伝える



より良い行動を引き出す工夫

基本的な考え方：火事を消化するのではなく防火対策をとる

- 問題行動が起きた後に対応するのではなく、問題行動を未然に防ぎ、より良い行動を引き出す
- 行動が起こる前の「環境」や「きっかけ」に着目する



具体的な5つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ



具体的な5つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ

✓何が本人を困らせているのか？を分析する



具体的な5つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ

- ✓物理的な騒音を避ける、視覚的な刺激を減らす環境調整
- ✓難しい作業、過大な要求がきっかけになっている可能性も



具体的な 5 つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ

✓小言や注意はなるべく避けるのが鉄則

✓穏やかに過ごせているときや良い行動ができているときに、肯定的な声かけをする



具体的な 5 つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ

✓不適切な行動の禁止ではなく、どう代替するか？を考える

✓パニックになりそうなときに、「少し休みます」「助けて」と発信する、静かな部屋に移動するなど



具体的な 5 つの柱

1. 問題行動は本人が困っているサインと捉える
2. 問題行動のきっかけを避ける
3. ポジティブなコミュニケーションを心掛ける
4. 不適切な行動の代わりにする行動を身につける
5. 社会との交流を保ち、本人が役割を持つ

✓「誰かの役に立っている」という実感や「意味がある」役割

✓家族だけで抱え込まない



社会的行動障害への対応のまとめ

症状を理解する

・問題行動の背景には様々な機能障害

3つの症状

・ブレーキ
・アクセル
・モニター

消火より防火

・未然に防ぐ
・環境調整
・ポジティブな声かけ
・家族で抱え込まない



参考資料

1. 渡邊 修. (2013). 認知リハビリテーションのエビデンス. リハビリテーション医学, 50(7), 530-535
2. 船山 道隆. (2022). うつとアパシーを見極める. 高次脳機能研究, 42(3), 326-330
3. 東京都高次脳機能障害支援普及事業 北多摩北部医療圏事務局 (編). (2020). 高次脳機能障害ってなんだろう? (改訂版). 独立行政法人国立病院機構東京病院
4. 沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 拠点機関 医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院. 高次脳機能障害ハンドブック: 障害の理解編
5. 愛知県福祉局福祉部障害福祉課・愛知県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 (編). (2024). ガイドブック: 高次脳機能障害について(第4刷)

引用文献

1. 一般社団法人日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会. (2025). 脳卒中治療ガイドライン2021 [改訂2025]. 協和企画
2. Ylvisaker, M., Turkstra, L., et al(2007). Behavioural interventions for children and adults with behaviour disorders after TBI: A systematic review of the evidence. *Brain Injury*, 21(8), 769-805
3. 東京都高次脳機能障害者実態調査委員会. (2008). 高次脳機能障害者実態調査. 東京都